

やまだらけ

YAMADARAKE



創刊50号記念!

早川の価値再発見



皆さんは、『やまだらけ』を何号から読んでいますか？『やまだらけ』は、山梨県早川町の情報誌として2003年9月に創刊されました。以来、隔月で刊行を続けて8年。この度、ついに節目となる50号を迎えました。

当初は、早川町やそのまちづくりを町外で支える「早川サポーターズクラブ」の会員向け情報誌として発行していましたが、現在では町民にも愛読されています。

メインとなる特集記事は、奥深い早川町の魅力や今の姿を様々な角度から紹介すべく、毎月テーマを変えて掲載。また、レシビの連載やイベント・特産品情報など、読者と地域を繋ぐ実用的な情報も載せています。

特集記事の取材・執筆に当たっているのは、主に町外に住む学生など、早川の魅力の虜となった有志です。素人ゆえの拙さもあるかとは思いますが、それを補って余りある早川愛を感じていただけるよう、毎回記事と格闘しています。

50号記念の今回は、私たちが多くの人に伝えたいと思っている早川の魅力や山村の価値について、取材を振り返りながら再確認。バックナンバー片手にお読みいただくと、楽しさ倍増ですよ！（柴田彩子）

写真は、過去49号全ての表紙。左上が創刊号。その右が2号。以下、右下の49号まで順番に並べてある。

座談会の様子。今回は特別に集まったが、毎年、年末から年明けにかけて編集部員が集まり、翌年度の特集記事のラインナップを決める会議を実施している。



2011年10月10日、早川町交流促進センター2階に集まった、編集長以下9名の『やまだらけ』編集部員。これまでの取材を通して見えて来た早川の魅力や、『やまだらけ』で伝えたい早川の価値について、約3時間半に渡って語り合った。

取材から見えた 早川の魅力・価値

まずは、皆さんそれぞれの取材の時に印象に残ったことや、感じたことなどを聞かせて下さい。

【小谷】味噌文化(45号)の取材で、「思いついたらすぐにやってみるのが大事！」



45号味噌文化の取材風景。お願いしていた料理の他にも、たくさんの料理が並ぶ。食文化の取材の時は、どこへお邪魔して同じような調子で、スタッフは恐縮しきり。暖かさゆえ、自分もそうありたいと思う瞬間。

やってみることで料理もうまくなるんだよ」と言われて、この感覚はいいなあと思いました。



小谷 安矢(こたに あや)
学生時代、インターン生(注1)として初来町。2年間、別の会社で働いた後、2010年に上流研に転職。

「何事もまめにこなす早川の人ならではの言葉ですね。続きまして大久保さん、お願いします。」

【大久保】茂倉集落(42号)でいいなと思うのは、何かにつけて人が集まること。集落への愛を感じます。あと、水道管を自分たちで取り替えたりするのは、本当に凄いなと思います。都会に住んでいると、誰かにやってもらうのが

当たり前なっているのでは…。

記事は、集落の絆が次の世代にはどうなっていくのか。祭りなど集落の行事が絆を再確認する機会になっているから、それを続けていくことが大事なんじゃないかと思って書きました。

「茂倉らしい、人と人との繋がりが分かる話ですね。ただ、そういう伝統を受け継いでいくことが難しくなりつつある現状もある…。夏秋集落(35号)はどうでしたか。」



大久保 実香(おおくぼ みか)
千葉県在住。ゼミ合宿で初来町。修論は、茂倉集落の繋がりについて書いた。早川での調査も続行。

【大久保】松永節子さんの笑顔が印象に残っています。山の中に少ない人数で住んでいても、それが当たり前で、不便でもないし、特別に寂しいということもないと言ってるらっしゃって。

でも、どちらの記事も現実を見ると明るくばかりも書けないので、バランスが難しかったです。

【遊佐】森林組合(33号)の取材を通して、少し大げさかもしれませんが、早川町に対する見方や、中山間地域から日



遊佐 敏彦(ゆさ としひこ)
東京都在住。学生時代、「2000人のHP」の取材で初来町。卒論・修論を早川の移住者や空き家をテーマに書く。現在、大学で教壇に立つ傍ら博士論文執筆中。

本そして世界を考えるとという視点に気づかされました。特に「将来は森林の価値が見直されるかもしれないので、今あるものをしっかりと管理して、必要ときに切って出せるように準備しておく必要がある」という長谷川空五さんの言葉を聞いて、何十年も先のことを考えているんだな、と感動しました。

「何十年もの時間をかけて、やっと育つ森林を相手にしている方の言葉、だけありますね。」



写真上：35号夏秋の取材中、笑顔を見せる松永節子さん。雨の中、集落を丁寧に案内して下さった。
写真左：33号森林組合の取材では、早朝から重い荷物を背負って雪山へ作業に出かける職員に同行。その過酷さを、初めて垣間見た。



(注1) インターン生…早川町では地域づくりに関心のある学生を、インターン生として毎年夏休みに受け入れている。



写真左上は、3号正月支度の取材中、餅を切る深沢定富(故人)さんと和江さんご夫妻。写真下は、9号、望月つね彥さんの豆腐作りの取材。どちらも、お正月の忙しい時期に朝早くからお邪魔したが、快く対応していただいた。



6号の取材で、様々な山の道具を見せてくださった鈴木長雄さん。自分で獲った熊の胆も見せていただいた。



福永 香織(ふくなが かおり) 千葉県在住。社会人6年目。学生時代、「2000人のホームページ」の取材のために初来町。卒業論文で早川町について書き、その後も早川に通い続けている。

「福永」 「お正月」(3号)も「大豆の恵み」(9号)も、1人の人・1つの家族にじっくり話を聞きました。取材の後も付き合いが続いています。でも、深く話を聞いたからこそ、一人暮らしのこととか、子どもが帰って来るとか来ないとか、気になりますね。



鞍打 大輔(くらうち だいすけ) 上流研の主任研究員。1999年に早川へ移住。編集長として、取材の段取りからレイアウトまで手がける。

「テーマについての話を深く聞けば聞くほど、話をしてくれた方のことも気になってしまいますよね。」
「**【柴田】**「アウトドア」(6号)は、奈良田と雨畑という町内でも二大「山の地域」の二大山人に話を聞いたので面白かったです。」
「**【鞍打】**「ロープとカリトビ」(記事の中で紹介したピッケルのような道具)で、どんな険しい山でも歩いていく姿はすごいと思ったよ。」
「**【柴田】**雑穀(30号)の取材では、「雑穀を作ればその分(暮らしが)贅沢になる」という言葉を聞いて、雑穀栽培をすごくポジティブに捉えているんだと嬉しく思いました。私自身はもちろんそういう風に思って取材していたのですが、町民自身の口からそういう言葉が聞けて、安心したというか。」



柴田 彩子(しばた あやこ) ※右 学生時代、修士論文執筆のために初来町。2001年から約9年間、上流研(注2)に勤務していた。現在、神奈川県在住。



写真上：30号雑穀の取材。背丈よりも高いアカモロコシを収穫する荻本良作さん。稲又集落の風景も美しかった。



写真左：47号大工の親子の取材風景。息子の作業を心配そうに見つめるお父さん。何か言いたそうだが、じっと我慢しているように見えた。

「ところで、早川町で生まれ育った中根さんは、どの号が面白かったですか?」

「**【中根】**どれも面白いですが、中でも「大工の親子」(47号)は年の近い尊文くんが頑張っているのを読んで、自分の目標になる!と思いましたね。」

「今までの話でも少しずつ出ていますが、改めて、皆さんが取材などを通して感じた早川の魅力や価値についてお聞きしたいと思います。」

長いスパンでモノを考える

「遊佐」都会に住んでいる自分が忘れていた物の考え方があって、そういう見



中根 達也(なかね たつや) ※右 上流研初の、地元出身の研究員。3年間、別の会社で働いていたが、2010年に上流研に転職。

方「早川を見直すと、それまで気付かなかった価値に気付きました。例えば、森林組合の長谷川さんが言っていた「山は酸素を供給する装置」とか。」
「**【大久保】**「いつかまた茂倉に昔のように畑が広がる時代が来る!」と茂倉の方が言っていました。その時のために、できるだけ自分たちの土地をちゃんとしておきたいって。」

「現代社会は、どんどんモノを考えるスパンが短くなって、目先の、しかも目に見える成果や効率を求めがち。でも、早川の人はそうではない考え方で、しっかり未来を見据えているんですね。」

技と知恵があるからできることー使い込む文化

「**【鞍打】**早川の人には、「使い込む文化」があるよね。研いで研いで小さくなった鎌とか。」

「**【大久保】**私も茂倉で、畳のへりの布を取って置いて、カゴの補修とか腰紐と

(注2) 上流研…NPO 法人日本上流文化圏研究所。早川町が平成8年に設立した、まちづくりの中間支援組織。やまだらけ編集部も上流研の中にある。

か他のものに使っているのを見て感激しました。

【柴田】自分たちでいろいろ作ったりするからこそ、いろいろ取っておいた物を活用できるのかもしれないね。

【小谷】手間をかける文化っていうのもあると思います。

【鞍打】近藤さんの「買うより作る方が便利」っていうのもすごい言葉だね。

【小谷】確かに本当に欲しい物って探すとなかなか見付からないですよ。

【鞍打】ノコギリの柄なんかも、自分でびったりの木を山から探してくる。

—現代人は、何でも買うことが当たり前。直すより買った方が安い、使い捨ての文化。一つのを長く使うとか、形を変えて使い続けるということも意外でもあるし、やろうとしても、知恵も技もないので難しいのかもしれない。「まんのうがん（万能な人）」だからこそ、都会人のいう「リサイクル」を越えたりサイクルも可能なのでしょう。

自然と神様と人、 時間との繋がりが

【石川】人と人との繋がりが深いのが魅力的。集落の人同士もだし、何度か訪ねていくうちに、自分たちに接してくれる接し方とか。



石川 宜裕(いしかわ よしひろ)
千葉県在住。社会人10年目。卒論・修論を早川で執筆。社会人になってからも足しげく早川に通う。

【柴田】あと、当たり前前に自然との付き合い方を分かっている。

【鹿島】自然と人も繋がっているんだけど、その間に、神様がいるな〜って思います。お祭りなんかをすごく大事にしているし。

【福永】人間だけで生きてないよね。神様がいて、自然もある。

【鞍打】自分の力の及ばない所があるっていうことを理解しているってことなんだらうね。

【大久保】「先祖様も大事にしてる。歴史の重なりも感じます。」

—早川の人々は、周囲の人々との繋がりはもちろん、自分を取り巻き、時に厳しさを突きつける自然との繋がりがも感じながら日々を過ごしていますよね。神様やご先祖様を大切にするというのは、災害など自分ではどうにもならない出来事や歴史という、人間の存在を超越するものに想いを致しているということかもしれません。

災害時に本領発揮！ —生きる力と備え

【鞍打】とにかく「生きる力」がすごくある。災害に見舞われても、都会人のように大騒ぎしないし、パニックにもならない。騒いでいるのは、どちらかというとメディアの方。非常時にこそ、「生きる力」の真価が問われると思うんだ。

【石川】災害の時に都会の人間が買いためなんかしてしまうのは、自分の手で何一つ生み出していないからだと思う。

早川の人って何でも自分たちで出来て、人間としてのスペックが上だな〜って思う。

【鞍打】その延長で、早川の人は「備え」ができていと思う。

【小谷】防災訓練に出た時に、「初めてだったらやってみた方がいいよ！」って言われてホースの訓練をやってみた。あと、「消火栓のここが使いにくいから、今度直す時にこう変えてもらおう。」って確認したり、実践的な訓練を

していることに感心しました。

【鞍打】備えとか段取りをしつかりしておかないと、こういう地域では暮らしていけないんだよね。買物にすぐ行けるわけでもないから、例えば友達が来るときも、料理やお酒をどうするか、事前に考えたり準備したりしておかないといけない。でも、都会はそうした頭を使わなくても暮らしていけるようになってちゃってる。

手の届く範囲で生きる

【鞍打】これからは、自分たちの手の届く範囲・力が及ぶ範囲で生きていく社会を取り戻さないといけないと思うんだよね。行政のシステムやまちづくりなんかも同じだと思う。でも、他人任せにしないということは、人のせいに来ない、リスクも負わないといけないっていうことの裏返しだから覚悟もいる。この間の地震や台風もそうだけど、誰のせいでもないことって世の中に起こりうるじゃない。大げさかもしれないけど、早川の人には、全てを受け止める覚悟がある気がする。

【柴田】いろいろなことを自分でやっているからこそ、自分たちの力の及ばない所も分かるし、誰のせいにも出来ない何かが起こるかもしれないと思ってるから、いろいろな備えを日頃から



鹿島 健利(かしま たけとし)※左上流研研究員。学生時代、インターン生として初来町。修論では早川の集落のあり方を研究。

しているのかも知れませぬね。

【福永】「まんのがん」という言葉が表していると思います。早川の方々の生きる力のすこさや知恵を目の当たりにして、自分の価値観も変わりました。

いろいろな話が出ましたが、早川で生まれ育った中根さんは、今の話を聞いてどう思いましたか？違和感があったりしますか？

【中根】正直、自分たちの世代は早川に住んでいても田舎らしいことをしているわけではないので、『やまだらけ』に取り上げられるようなことはしっかりと身に付けたいと思いますね。そうじゃないと、文化や歴史は根着いていかならないと思います。

一方、小谷さんと鹿島さんは、途中から早川の住民になったわけですが、実

際に暮らしてみても分かったことや感じたことはありましたか？

【鹿島】集落の持つ力！なんか落ち着くんですよ。所属することの安心感というか。

【小谷】町内に知り合いが増えて来たので、『やまだらけ』を読み直すと「あ、あの人！」と思うんです。そういう意味で、やまだらけも早川出身者とか、ちよっと様子が分かる人には、（様子が分からない人よりも）より響くと思うんです。

やはり、早川で暮らすと、人と人との関係が魅力だということですね。「顔の見える関係」というのは、生きていく上で大いなる安心をもたらすものなのではないでしょうか。

早川の魅力や価値を伝えていくために

【大久保】震災後、「早川的な生き方」みたいなものが重要だって都会の人にも思っている。これからは「早川の時代」が来るはず。それなのに、正直な所、何十年後の早川を考えた時に、明るいイメージをもつのが難しいんです…。

【石川】このままだと、せつかくの早川の力が失われてしまうかもしれない。

【鞍打】大切に気付いている人は多い

けど、世の中、根本的に変われるのか。

【大久保】それから、さっきも出たけど、「早川の人」といっても皆が何でも出来るわけじゃなくて、世代によって出来るものが違うこともありますよね。

【鞍打】確かに、うちの世代が老人になった時、今のお年寄りみたいに元気でいられるか分からないね…。今の早川のお年寄りも手が違うもの！（自分の手を見て）こんなキレイな手じゃダメだ（笑）。やっぱり、自分たちから「まんのがん」にならないとね。

では、最後に編集長、今後の『やまだらけ』について一言お願いします。

【鞍打】これからも頑固な情報誌でありたいですね。とことん早川にこだわって。そして、いずれ自分が「まんのがん」として特集してもらえるように頑張ります！（一同笑い）

おわりに

3月の震災、そして9月の台風では、交通や流通、通信、電気、水道、ガソリンにガスといった、現代日本の日常を支えていた「便利なモノや仕組み」が軒並み止まったり滞ったりした。地震には、原発事故というとんでもないおまけまで付いて来た。そして、ようやく「このままではいけない」と、多くの人が気付

いたのではないだろうか。

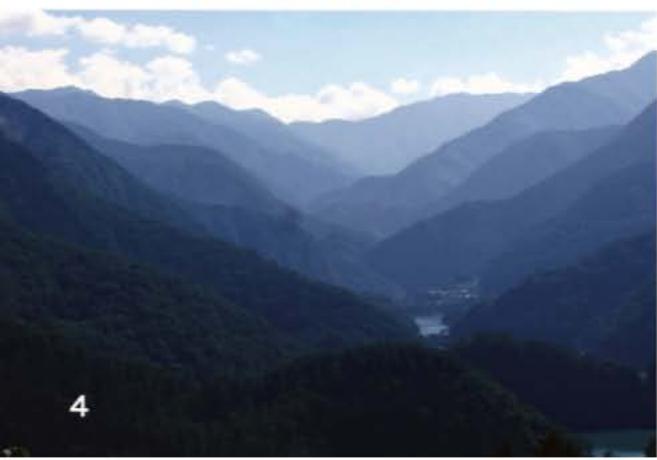
早川の人々の暮らしには、こうした現代の社会が抱える問題を解決するヒントがたくさん詰まっている。それを、『やまだらけ』で伝えていきたい。そして、そういう暮らしを送る早川の人々の楽しそうな様子を、たくさんの人に知ってもらいたい。確かに、明るい未来ばかりとはいえない。でも、だからこそ、『やまだらけ』で今の早川の姿を書き留め、時間や空間を越えて多くの人に伝えたい。

早川町は、掘れども尽きせぬ宝の山。編集部メンバーは、きっとみんなそう思っている。50号の間に掘り出した宝は、まだほんの一部。これからも続く宝探し、そして『やまだらけ』と早川町への応援を、今後ともよろしくお願いたします！

雨畑の戸屋集落から南を見る。幾重にも連なる山ひだは、早川の豊かさ、厳しさを象徴する風景だ。この大自然の中で営まれて来た人々の暮らし、そしてその知恵や技術が、早川町の宝であることはもちろん、社会全体のひとつの資産となっていくであろう。



年に一度実施している、翌年度の特集を決める会議。それぞれが、とっておきの早川町の宝を披露する。100以上のネタが出され、そのなかから厳選に厳選を重ねわずか6本が選ばれる。



12/23-25

生き物との共存について考えてみませんか？
ワイルドライフツアー「ニホンザルに迫る」

調査活動への参加を通じて、野生動物と私たち人間との共存について考えます。ニホンザル以外の生き物にも出逢える可能性が！



日時：12月23日(金・祝)～25日(日)
 対象：中学生以上

※中学生は保護者同伴
 参加費：大人 21,800円 / 1名
 学生 19,620円 / 1名 (全て税込み)

※宿泊代、プログラム費、食費(6食)、障害保険料含む。
 定員：14名(12月20日までに要申込)



どちらのツアーも宿泊は「光源の里温泉ヘルシー美里」です。JR身延線「下部温泉駅」または高速バス「飯富停留所」からの送迎ができます。詳しくはお問合せください。

ツアーの詳細はこちら
<http://www.hayakawa-eco.com/yacho/eventlodging.htm>
 早川サポーターズクラブ会員は、どちらも1割引で参加できます！

申込・お問い合わせ先
「南アルプス生態邑 野鳥公園」
 TEL/FAX:0556-48-2288 mail:yacho@hayakawa-eco.com
 または「南アルプス生態邑 ヘルシー美里」
 TEL:0556-48-2621 FAX:0556-48-2622
 mail:info@hayakawa-eco.com

1/7-9

憧れの鳥たちを探しに行きませんか？
バードウォッチングツアー「冬鳥に出逢う」

ミヤマホオジロなどの冬鳥、バードウォッチャー憧れのクマタカ、イワヒバリなど南アルプスの麓、早川町ならではの野鳥たち…。夜はフクロウ探しにも出かけます。



日時：1月7日(土)～9日(月・祝)
 対象：小学生以上

※小中学生は保護者同伴
 参加費：大人 21,800円 / 1名、学生 19,620円 / 1名、
 小中学生 17,000円 / 1名 (全て税込み)

※宿泊代、プログラム費、食費(6食)、障害保険料含む。
 定員：14名(1月4日までに要申込)

南アルプスプラザに新メニュー登場

**「ベーコンステーキ定食」と
 「辛トンテキ定食」を食べに来おし！**

じわっと辛い「辛トンテキ」は、財団の運営する手作りハム工場の豚肉を、白鳳みそと辛ししとうでつけ込んであります。また、麓の直売所のランチでもお馴染みのボリュームたっぷり「ベーコンステーキ定食」がプラザにも登場！寒い季節、店内の暖かい暖炉にあたりながら、早川の特産品をふんだんに使ったお食事をお楽しみください！



どちらもライス、スープ付き

問い合わせ先「**南アルプスプラザ**」
 【住所】山梨県南巨摩郡早川町高住 650 【電話】0556-45-2600
 営業時間 8:30～17:00 水曜定休(12月中旬～3月中旬 日曜定休)

**南アルプスの大自然と、暖かい人々に囲まれて
 早川で子どもをたくましく育てよう！**

早川北小学校、山村留学生募集中！

早川町ならびに早川北小学校では、現在、山村留学生を募集しています。自然豊かな場所で子どもを育てたいという方、ぜひお問い合わせ下さい。

**子育て世代へのバックアップも充実
 義務教育費を完全無償化、検討中！**

合わせて町では、給食費、教材費、修学旅行費など、義務教育に関わる費用の完全無償化を、来年度から実施する方向で検討中です。子育て環境も、ますます充実。早川町があなたを待っています！

お問い合わせ先
 早川町教育委員会 ☎0556-45-2547
 早川北小学校 ☎0556-20-5531
<http://www.hayakawa-kitasho.ed.jp/> に詳細あり！

早川町が
 生き残る道は
 自然を守ることにある

西山温泉 元湯 **蓬莱館**

〒409-2702 山梨県南巨摩郡早川町湯島 73
 TEL: 0556-48-2211(代)/FAX: 0556-48-2366

奈良田温泉
 七不思議の湯
白根館
 日本秘湯を守る会々員

〒409-2701 山梨県南巨摩郡早川町奈良田 344
 電話 0556-48-2711 FAX 0556-48-2770
www.nukuyu.com/shiranekan/

毎分 1,630ℓ 湯温 52℃の掘削自噴火温泉では日本唯一を誇る新湯湧出
 全てのお風呂、客室風呂、給湯、シャワーに至るまで 源泉掛け流し

全館源泉掛け流しの宿
慶雲館
 西山温泉

〒409-2702 山梨県南巨摩郡早川町西山温泉
 TEL 0556-48-2111 FAX 0556-48-2611 <http://www.keiunkan.co.jp>

地元密着の店

有限会社 **スーパー岩田屋**

山梨県南巨摩郡身延町飯富 1383 番地
 TEL: 0556-42-2125 FAX: 0556-42-2299

〒400-0606 山梨県南巨摩郡身延町十谷 4249
 電話 0556-27-0224
 ファクシミリ 0556-27-0227

十谷上湯温泉
源氏の湯
 日本秘湯を守る会々員 www.nukuyu.com/genji-yu/

新築、改築、マイホームの事なら何でもおまかせ

日本建築のプロフェッショナル

望月工務店

〒409-2713 山梨県南巨摩郡早川町保 1792
 TEL.0556-45-3016 FAX.0556-45-2661(工場)

早川旬の直送便

直送便ウェブサイトでは、その他の商品も販売しております。会員割引も適用できますので、ぜひご利用下さい。

<http://shop.joryuken.net/>

ポポをダイレクトに味わえるシャーベットが復活！ 「ポポアイスとシャーベットのセット」

ポポの商品開発を始めた当初、アイスとともにシャーベットも販売していましたが、ポポの生産量の関係で販売を休止していました。そのシャーベットが、4年ぶりに復活です！



早速、ポポの風味をダイレクトに味わえるポポのシャーベットとミルクとブレンドしたまろやかなポポのアイスクリームをセットにして販売いたします。この冬、暖かいこたつの中で、お召上がり下さい。

内容/ポポアイスクリーム 3個
ポポシャーベット各 3個
※1カップ 120ml
価格/通常 1,800円 + 送料
会員 1,620円 + 送料
発送/注文順に発送
締切/通年受付

会員価格は、早川サポーターズクラブ、及びNPO法人日本上流文化圏研究所の会員に適用されます。

自然の風合、しっとりした手ざわりがうれしい 「陶房煌知の小皿」

小さなおかずやおつまみ、デザートを感じたりと、何枚あっても重宝するのが小皿です。今回は、「麻の葉」の模様が刻まれている小皿(写真下)と、金彩の入った小皿(写真上)をご用意しました。この冬はお好みの小皿で食卓を楽しませてみてはいかがでしょうか。探り皿などにしてお使いください。

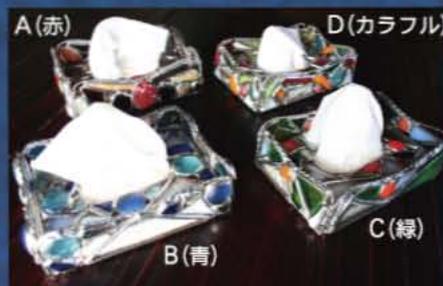


※ご注文の際は、「麻の葉小皿」が「金彩小皿」でお申し付けください。

内容/大きさ: 約 19cm×11cm×高さ 3.6cm を1皿
※手作りのため形や風合いは多少写真と異なります。
価格/通常 1,300円 + 送料・会員 1,170円 + 送料
発送/注文順に発送
締切/12月26日(月)まで

ガラスから零れる美しい光 「板面庵のティッシュボックス」

スタンドグラスが美しいティッシュケースです。ガラス片を焼き直して、立体感をだしています。今回はポケットティッシュサイズのティッシュボックスを用意しました。余っているポケットティッシュをケースに入れて、ガラスから零れる色合いを楽しんでください。色合いは4種類からお選びください。



※ご注文の際は申し込み記号でお申し込みください。

内容/約 9cm×12cm 高さ 3cm
価格/通常 2,000円 + 送料
会員 1,800円 + 送料
発送/注文順に発送
締切/12月26日(月)まで

■ご注文・お問い合わせ先■

NPO 法人 日本上流文化圏研究所 (やまだらけ編集部)

TEL. 0556-45-2160 (9:00~17:30) FAX. 0556-45-2268 E-mail shop@joryuken.net

注文者氏名、住所、電話番号、お送り先氏名、住所、電話番号、商品名、数量をご連絡下さい。ファックス、メールの場合、折り返しご連絡いたします。3日経っても連絡がない場合は、お手数ですが電話でお問合せください。支払いは、商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振込みください。

送料は、全ての商品の基本料金が、普通便 740円 で関西、中国、四国、九州、東北、北海道は +100円~420円かかります。

豪華賞品? が当たる やまだらけクイズ! 28

問: 今号で 50 号を迎えたやまだらけ。8年前の創刊号では、ある食材を取り上げました。その食材は何?

- 答①, 巨大「マイタケ」!
②, 幻の果物「ポポ」!
③, 早川の「そば」!

正解者の中から抽選で1名様に、「ポポアイスとシャーベットのセット」をプレゼント!

前回のクイズの正解は、3の「とうねいも」でした。抽選の結果、飯坂さん(つくば市)、仲亀さん(早川町)、尾上さん(中井町)の3名が当選しました!おめでとうございます!



浜田屋商店
電話 0556-48-2311

生命保険、損害保険のことなら
株式会社 さいとうエージェンシー
tel.055-280-3360 fax.055-280-3361

自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら
有限会社 S・T・E・P
tel.055-280-3350



〒400-0422 山梨県南アルプス市荻沢 1356-1

早川町で感動体験を...
南アルプス生態邑
光源の里温泉 ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園

ご予約・お問い合わせ
TEL/0556-48-2621
<http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/>

パソコン、PCソフト、NTT 販売代理店、
プリンター、コピー機、OA サプライ

オフィス事務機(有)

〒409-3244
山梨県西八代郡市川三郷町岩間 2077
TEL.0556-32-1003 FAX.0556-32-1004

霊峰七面山の登山口であなたの旅を支える

株式会社
俵屋観光
バス ジャンボタクシー
有限会社
俵屋旅館
宿泊 宴会 法事などに

〒409-2732
山梨県南巨摩郡早川町高住 621
電話 0556-45-2500

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。

早川砂利協同組合

代表 井上 聡一郎
山梨県南巨摩郡早川町小縄 26
電話 0556-45-2450

プルプル食感がたまらない 里芋まんじゅう



熱いの我慢して、蒸し上がった里芋の皮をむくお二人。
里芋はカリウムが豊富で高血圧の予防に良いそうです。作るだけでなく、栄養もきちんと考えられています。さすが、食改さん！

ほくほく、里芋のおいしい季節です。今回は、小縄集落の望月真知子さんと本村集落の望月久美子さんから、里芋まんじゅうをご紹介します。

見た目にも上品で、干しいたけや干しえびなどのやさしい旨味が広がる一品です。里芋のもったりとした食感が生きていて、だしを絡めながら食べると一層おいしさが広がります。れんこんや鶏ひき肉を入れたアレンジもできます。ぜひ試してみてください！

■材料 (4人分)

- 里芋……………600g
- 干しえび……………10g
- 干しいたけ……………3枚
- たけのこ……………60g
- A：しょうゆ……………大さじ1
- 砂糖……………小さじ1
- 片栗粉 (ア) ……大さじ2
- ごま油……………適量
- B：しょうゆ……………大さじ2
- 砂糖……………大さじ1
- 酒……………大さじ2
- みりん……………大さじ3
- 片栗粉 (イ) ……適量
- だし汁……………300cc

■作り方

① 干しえびは水、干しいたけはお湯で戻す(戻し汁 200cc は後で使う)。



② 里芋を皮付きのまま蒸す。柔らかくなったら、皮をむいてつぶし、片栗粉(ア)を加える。



③ ①とたけのこをみじん切りにし、Aで調味し、ごま油でさっと炒める。※炒める際は、しいたけ、たけのこ、干しえび



④ ②に③を入れて混ぜ合わせ、一口大に丸めて片栗粉(イ)を薄くまぶす。



⑤ だし汁、①の戻し汁、Bを合わせた鍋に、④を入れ、弱火で沸騰させずに10分ほど煮て出来上がり。



■NEXT やまだらけ

51号特集(2月上旬お届け)

「早川の若けえ衆んとう」

早川町で生まれ育った子どもたちが、自分のふるさとにどんな想いを寄せ、また自分の将来をどう見据えているのか。

やまだらけ第2章始めの一步となる次号では、20歳代前半のある学年に焦点を当て、社会に羽ばたきはじめた早川っ子の今を切り取ってみたいと思います。

地域発展のお手伝い！地域の暮らしを守る！

早邦建設株式会社

H21 湯川工用道路工事

【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートプラント】TEL.0556-45-2700
E-mail: soho@soho3000.com

読者の声

●大島は、60年くらい前に山の立木調査で、3泊4日くらい民家に泊まりお世話になった集落です。(富士川町Iさん)

●表紙の写真は、映画の世界のようないい写真ですね。(さいたま市Aさん)

●私が本建小低学年頃(S8~10年頃)、大島から(中略)河原道を歩いたところに、学問の神様天神様があり、毎年1月25日が近づくと、他の集落からも三々五々と参拝者があり、露天も出て賑やかでした。(平塚市Mさん)

編集部：大島特集へのコメントありがとうございました。大反響で驚きました。取材では出

てこなかったエピソードもちらほら。かなり力を入れて取材したつもりだったのですが…。

訂正とお詫び

No.48: p2~3の「雄滝弁天堂」の文章。大幅に間違っていたため、修正版を発行しました。会員の皆様に再配布、観光施設には修正版を設置し対応させていただきます。

No.49: p2右下の写真説明文1行目。誤「千洞田」→正「仙洞田」

関係の皆様には、ご迷惑をおかけし大変申し訳ありませんでした。ここに、お詫び申し上げ訂正致します。

日本の川

しちなのまがわ

日本一の大河である「信濃川」の源流から河口までを空から見ていく鳥瞰地図絵本
【定価1470円(税込)】

村松昭作

〒162-8450 信成社 TEL.03-3260-3221 FAX.03-3260-3222
東京都新宿区市谷砂土原町3-5 http://www.kaiseisha.co.jp/

鉛筆の名作 1ダース ¥1,764

「ハイユニ」

文具の
月禾堂 TEL(0556)22-0445

思い返せば、この企画が決まった1月は、大地震も台風も来る前。でも、こういった災害をきっかけに、今の社会のあり方について多くの方が考えるようになったので、タイムリーになってしまったようです。今回は、今まで何となく感じていた早川の魅力・価値について、編集部内で共有して文章にまとめられたので、有意義でした。読者の皆様にうまく伝わっているといいのですが…。(柴田彩子)

山を覗けば宝の山

やまだらけ

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/